



歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団

ホームページ <http://rekodan.a.la9.jp/>

事務局 〒252-0307 神奈川県相模原市南区文京1-5-19 エクメーネ304
歴史ライフ総合研究所内 宮田太郎

本部 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘1-40-6

(お問い合わせ・郵便は、上記の)

(「事務局」宛にお願い致します。)

(((((((中世の歴史遺産は活かされる日を待っている)))))

町田・多摩地方の「鎌倉古道跡」こそ、 世界遺産候補“鎌倉”的価値を証明する遺跡！

武家の古都である「鎌倉」は昨年1月、富士山と並んで世界文化遺産登録の候補として日本政府からユネスコに正式に推薦されています。1992年から京都や奈良とともに国内の候補リストに名を連ねつつ20年以上もその日を待ち続けてきました。今年6月にカンボジアで開催される世界遺産審議委員会でその決定を待ちますが、地元住民の声からは、狭い鎌倉での混雑が予想されることや小町通りなど賑やかな商店街が新興勢力によって変貌するなど反対意見も多いのが現状です。

しかし現在のような林立する開発の中で、鎌倉の歴史的価値を維持し復元も踏まえた調査や整備を進めることも徐々に困難になってきており、このままでは取り返しのつかない事態（歴史環境の虫食い的破壊が進行して蔓延し、気がついたら全体的な歴史遺産価値や歴史景観がなくなっていたという

悲劇）が来ることが予想されます。それはわずか50年間の鎌倉の町の変化を見ればわかることで、世界遺産登録というまたとないチャンスを取り逃がし、そのまま徐々に破壊される道を選ぶより、登録を前提として観光客の増加をきちんと見越しての様々な対策を講じる方が、はるかに賢明であると個人的（宮田）には考えています。同じ古都である京都や奈良が、鎌倉よりは広い面積ではあるものの世界遺産登録に耐えうる力を少しづつ育んでいったのも事実です。

そこで、鎌倉が世界遺産となるべき価値をどのように有しているかについて、鎌倉という内側のエリアばかりではなく、生命線たる「陸の交通路」が広がる外郭エリア（多摩丘陵など）にこそ注目し、行政枠を超えた複数の自治体関係者の協同力を創造して、古都・鎌倉を守る意識のより拡大を図ることが肝心ではないでしょうか。



鎌倉 鶴ヶ丘八幡宮

鎌倉と江戸の放射状道路網

関東に江戸幕府を開いた徳川家康は、金沢文庫がかつて所蔵していた書物を江戸城紅葉山に集めて学んでいたこともあり、源頼朝の事績に注目し、憧れ慕っていた可能性があるとみられます。実際に家康は源氏を名乗っており、亡き後にも「東照」大権現として崇められるようになった事実の背景には、頼朝の成功した部分から学び、関東に府を定めることの利点や意義も良くわかっていたのかもしれません。

東北の蝦夷文化圏も含めた「日本列島全体の中心」に位置しあかつ日本最大面積を有す広大な「関東平野」を“国全体の中央位置=要”と捉えて江戸幕府を開設したのは、時代の変革にかなった発想でありました。頼朝も家康も時代と拠点は違うものの、関東平野に面した海を背にして陸路を放射状に

開き、また海を正面にした海路を設置していることでは共通します。その違いと言えば頼朝は関西への交通の利便性を第一義に、有力な支援者の居る三浦と伊豆に挟まれた相模湾を選び、家康は内懐が深く風待ちに適し軍船を備えられる東京湾を選んだことと言えましょう。中心部分から内陸側へ放射状に陸の道・街道が創られたという共通的な特質は、これまでの西の朝廷拠点が全国の絶対的な中心であるという不動の常識から脱却し、あえて関東平野こそ“國の要”にふさわしいことを証明する上でも不可欠でした。鎌倉幕府や鎌倉関東府の武家政権が長期に渡り存続した理由を考える上でも、「放射状・道システム」を無視しては理解できないでしょう。

多摩丘陵の“鎌倉古道・遺跡群”も世界遺産候補の一員

鎌倉幕府の原動力たる「支えようと慕う周囲の人たちの心と行動のパワー」は、まさにローマの道のごとく放射状に広がる「鎌倉街道」をレールとして花を咲かせ実を結びました。その街道を大切に維持管理してきた地域の武士団や扶助組織体が協力してこそ機能できたのです。太平洋戦争による空襲

で「江戸」は、大名屋敷や街並みがほとんど遺せませんでした。しかし「古都・鎌倉」は空襲はあったものの横浜のような焼け野原まではなりませんでした。にもかかわらず現代になって都市開発で破壊されつつあるのは皮肉なことですが、外郭部である多摩丘陵には未だその当時のままの歴史環境や

遺構が残されているのです。まるでタイムマシンに乗って現れたような、町田市の小野路や野津田の「鎌倉街道・遺跡群」こそ、明治維新や太平洋戦争、戦後の乱開発を乗り越えて奇

跡的に遺された貴重な国家的・世界的歴史文化遺産なのではないでしょうか。

「鎌倉街道・歴史遺産の会」と協同し鎌倉街道・遺跡群を守ろう

町田市の鎌倉古道を後世に残し伝えるべく保全活動とPR活動を行ない、町田の観光に寄与していくという趣旨で2011年10月に誕生した「鎌倉古道・歴史遺産の会（会長：玉川大学・日本文化財保護協会副会長 多賀謙治先生）」は、今年1月に鎌倉の世界遺産登録を推進する協議会に加盟しました。またそれに合わせて今年の1月20日（日）には、町田市役所1階と2階で開催された「まちカフェ」で、昨年に続き町田市の七国山から小野路・野津田内に残る鎌倉街道上ノ道の様子や研究をブースにおいて紹介。また2013年2月9日には川崎市国際交流センターにての多摩・三浦丘陵広域連携会議：主催『多摩・三浦丘陵シンポジウム』でも同様な

発表を行なっています。また来たる3月9日の総会には、町田商店街の中の中央公民館ホールで「鎌倉古道—武家の古都・鎌倉への道—」と題した講演会（講師：宮田太郎。当会の運営委員長）も行なわれます。

歴史古街道団のメンバーや七国山の保全活動で表彰されている会の方も参加しており、町田市の観光やまちづくりにぜひ「鎌倉古道」を役立てもらいたいと運営委員みなで力を合わせて頑張っていますので、ぜひ歴史古街道団としても応援していきましょう。

【問い合わせ先】 鎌倉古道・歴史遺産の会
事務局（今井）メール i_kuninori1211@yahoo.co.jp

宮田太郎団長と行く ロマン探索ウォーク

《申し込み不要 当日受付 雨天中止》
《宮田 携帯 090-7002-3431》

日帰り探索ウォーク “武相国境線”の謎を探る⑨ 鎌倉・円海山と神秘の瀬上池

2013年 6月23日(日)

【内容】このシリーズも残すところ5回となりました。最終回は金沢八景六浦の野島が終点の予定ですが、今回は港南台から円海山へ、さらには神秘なる瀬上池付近までたどります。瀬上池は、巨大なスリバチ状・あるいはアリ地獄型の地形の奥底にあり、湧き出でる清冽なる湧水池。太古の貝の化石層も見られ、スリバチの縁にあたる尾根上に武相国境古道が通っています。タカラ氏の道とも言われてカネザワ(金沢)に続く様はこれまでの国境線が住宅地化しているのとは異なり、大自然の中の遺跡としての迫力に満ちたコースです。

【コース】JR根岸線「港南台駅」改札口前に午前10時集合～港南台高校の南の武相国境古道～上郷高校（上郷猿田遺跡＝縄文遺跡、奈良時代の集落）～瀬上市民の森の北縁の古道～港南台8丁目の複数のファミレスで自由昼食～円海山～瀬上池～瀬上沢の貝化石地層～深田やぐら群～八意思兼神社～紅葉橋バス停～JR大船駅。約6キロ。解散は15時40分頃。

日帰り探索ウォーク “武相国境線”の謎を探る⑩ 鎌倉最古の切通し「白山道切通し」と横浜自然の森

2013年 7月13日(土)

【内容】かつて鎌倉の中心部と金沢六浦湊を結んだ朝比奈切通しの鎌倉街道。しかしそれが開かれるより以前の最古の切通し「白山道の切通し」が朝比奈切通しの北側にあります。アクセス方法が難しく、知られていませんが歴史ある古道ならではの風情と迫力が残されています。また武相国境線はここで初めて尾根上から谷へと一旦降りて「界（さかい）の地蔵」とも言われた磨崖仏「鼻欠け地蔵」に至り、再び逗子市と鎌倉市の境の尾根に戻って金沢湾の野島に向かっています。分水嶺から外れる理由は不明ですが、一つの仮説を提示しつつ探っていきます。



【コース】JR東海道線「大船」駅南改札びゅうプラザ前に午前10時集合～路線バスで環状4号線「稻荷森バス停」下車～證菩提寺～いたち川沿い古道～上郷市民の森（発見した未登録遺跡）～みずき広場（各自弁当昼食。マクドナルドあり）～光明寺～東上郷の白山神社～庄戸と金利谷の境の武相国境古道～ビートルズトレイル～大丸山～横浜自然観察の森（WC）～鎌倉アルプス北東角の白山道切通し～横浜横須賀道路下～高舟台の武相国境～環状4号線・大道中前バス停（鼻欠け地蔵）～路線バスで京急「金沢八景駅」。約6キロ。解散は15時50分。

宮田団長が案内する各地の旅のご案内

■5月8日(水)～10日(金) 2泊3日ツアー テーマ:伊勢神宮の謎

主催: クラブツーリズム

■6月12日(水)日帰りバスツアー

テーマ: 東京湾を渡るヤマトタケル古街道

主催: クラブツーリズム

〔葉山～横須賀編〕

■6月20日(木)～21日(金) 1泊2日バスツアー テーマ: 伊豆の歴史古道を歩く

〔伊豆の三島神と古代遺跡〕

主催: 朝日カルチャーセンター

■6月25日(火)～28日(金) 3泊4日ツアー

テーマ: 韓国新羅王国の歴史探索ツアー

主催: NHK学園国立本校

お問い合わせ ◎クラブツーリズム 街道あるき ☎ 03-5323-6681 ◎朝日カルチャーセンター事業部(新宿) ☎ 03-3344-2041
◎NHK学園 駅前本校 ☎ 042-574-0570

歴史古街道団 講演会 2013年 3月7日(木)

【講師】宮田 太郎



東京都多摩市出身
古街道研究家 歴史古道まちづくりプランナー
朝日カルチャーセンター 多摩らいふ俱楽部、
NHK学園、クラブツーリズムほか講師
歴史ルポライター 歴史古街道団団長
日本フットバス協会理事
NPOみどりのゆび理事 NPO横濱楽座理事
町田市観光コンベンション協会講師

『東北エミシ古道の魅力』 ～蝦夷の首長アテルイとモレの砦～



多賀城(正庁跡入口) アテルイの砦跡(羽黒堂跡)

【内容】かつて古代～中世にかけて、関東から東北地方、そして北海道南西部にかけて蝦夷(エミシ)の文化圏が広大な範囲に広がっていました。蝦夷(エミシ)とはいつといどんな人々で現代の私たち日本人の歴史の中にどう関わってきたのでしょうか。有名な京都の清水寺の舞台の下には、エミシの首長アテルイやモレの頸彰碑があり、かつてエミシ征討に向かった坂上田村麻呂とアテルイたちの深い心の交流を今に伝えてくれています。関東のハケ岳から東北仙台の多賀城そして一関・平泉へ奥州水沢のアテルイの砦まで、エミシ古道の深い魅力をご紹介します。

【会場】多摩市関戸公民館 大会議室(VITA8階)
(京王線・聖蹟桜ヶ丘西口、徒歩3分。ヴィータ・コミュニティ8階)
【時間】PM. 2:00 ~ 4:00

【参加費】団員: 700円 一般: 1,000円

【申込み】当日会場にて受付 先着90名
(団員以外の方のご参加もOK。お気軽にどうぞ)

歴史講演会

2013年 3月9日(土) ▶▶▶

鎌倉古道～世界遺産「武家の古都鎌倉」への道～ 鎌倉古道・歴史遺産の会 主催 「鎌倉古道」を知る歴史講演会

【講師】宮田 太郎 《古街道研究家》
【会場】まちだ中央公民館7階ホール
(JR町田駅徒歩5分 109ビル)
【時間】午前10時50分～12時10分
【参加費】300円(資料代) 一律
【申込み】事前申込み不要(当日受付先着順) 100名
(受付開始 10時30分)
【問合せ】今井 mail : i_kuninori1211@yahoo.co.jp
FAX : 042-735-5972

【内容】世界遺産を目指す古都鎌倉の、その歴史の重要性を証明する「鎌倉古道」。
中世の政治・軍事交通システム「鎌倉古道」はいったいどんなものだったのでしょうか。鎌倉から町田・多摩へ続く鎌倉街道研究から見えてきた考古学や歴史地理的なその実態は驚きの数々。町田市に誕生した「鎌倉古道・歴史遺産の会」主催です。この機会にお互いに協同していきましょう。ご家族・知人などお誘いの上、お気軽にご参加下さい。
一緒に中世の道の不思議な世界に思いを馳せてみませんか。

2013年 5月26日(日) ▶▶▶

鎌倉大城郭！～北鎌倉・山崎地区の鎌倉防戦遺構群～ 歴史古街道団2013年 総会 「鎌倉城を探る」歴史講演

【講師】宮田 太郎 《歴史古街道団長》
【会場】多摩市関戸公民館 (VITA8階)
(京王線聖蹟桜ヶ丘駅西口徒歩3分 OPAビル)
【時間】14時45分～16時
(総会は13時30分から14時30分。
その後が講演会です)
【参加費】団員 無料。一般 300円
【申込み】事前申込み不要(当日受付先着順) 90名

【内容】世界遺産を目指す関東の歴史都市・鎌倉。軍事拠点でもあった「武家の古都鎌倉」の構造、特に外郭部は未確認なことがたくさんあります。特に鎌倉幕府が新田軍により崩壊した戦いで激しい攻防が繰り広げられた大船(洲崎)側は、正に鎌倉防衛の最前線であったはず。この北鎌倉・山崎地区にて、これまでの独自の実地踏査で確認した鎌倉城の防衛・防戦遺構の数々、その跡地にできた魯山人の窯跡や彼のユートピア遺跡などについてお話しします。

2013年 7月20日(土) テーマ：伊豆の三島神と古代遺跡の謎

【内容】伊豆国府近くにある三島大社の主祭神である三島明神は、おお山祇神(おおやまづみ)や事代主命を合わせた神ではなく、実際は伊豆白浜に三宅島から移った海洋民族のリーダーであり、南伊豆一帯を押さえていた弥生～古墳時代頃の独自の文化圏の存在が考えられます。白浜神社の火達祭や須崎

の夷島の烽火台遺跡こそ、伊豆七島それぞれにいた妻子や同族との合同祭りの合図であり船を呼び込む灯台の役目をしていたのではないでしょうか。150万年前からの火山活動の痕跡であるジオパーク資源の神秘の中に重なった伊豆神話が織りなす壮大な歴史ストーリーと遺跡についてお話しします。

2013年 8月24日(土) テーマ：富士五湖・秦始皇帝の使い“徐福”伝説

【内容】富士山麓の古代世界は溶岩流の中に埋まってしまっているのでしょうか。古くから富士吉田・河口湖周辺には、秦の始皇帝の命令で不老不死の妙薬を探しに日本に来た徐福方士と一行の伝説が豊富に残っています。古い伝説ならでは

の脚色もありますが、なぜこの地方にそのような話が広く伝わっているのかという大事な探究が大切です。そのロマンの地の魅力に迫ります。

7月20日 8月24日 両日とも

【時間と会場】多摩市関戸公民館8階大会議室(京王線・聖蹟桜ヶ丘西口から徒歩3分。OPAビル8階VITA内) 14時～16時

【申し込みその他】 申し込み不要、当日受付先着90名。【参加費】 団員：700円 一般：1,000円

なめがたフットパス – 2012 日本フットパスセミナー in 行方 – に参加して…！

中村 敬子（団員）

昨年11月3・4日、茨城県行方市のフットパスに参加しました。行方は茨城県の南東部に位置し、潮来に近い所です。日本全国から100人位の方が集まつたでしょうか。

一日目はセミナーが行われ、霞ヶ浦市郷土資料館学芸員の千葉隆司氏、歴史古街道団の宮田太郎団長の講演がありました。その後、歓迎のイベントがあり、夕方には交流会も開かれました。歴史古街道団からは、宮田団長を始め、濱野さん、須知さん、斎地さん、中村が参加しました。

二日目は、二つのコース（玉造りふれあいコース、武田の里コース）に分かれ、須知さん、斎地さん、中村の三人は、武田の里コースを体験しました。武田川に沿って



神明城址の森を望む武田川畔

田んぼが広がる里山の風景にふれながら2時間ほどかけてウォーキングをしました。途中には、戦国時代の山城（神明城）へ続く今は苔むした石段があつたり（のぼってみる事は出来ませんでした）雑木林の中に地元の方の協力で庭を整備して作ったウッドデッキ、ハンモックなどもある遊び場もありました。このコースのために市の方が草刈機を使って武田川沿いの歩く所を整備したそうです。

初めてフットパスに参加してみましたが、楽しい二日間でした。この催しは、NHKが取材に来ていて、首都圏ネットワークで放送されました。

濱野 千秋（団員）

平成24年11月3日（土）と4日（日）の二日間、「なめがたフットパス」が茨城県行方市で開催され、歴史古街道団団員7名が参加いたしました。

初日11月3日は午後にレイクエコー（茨城県鹿行生涯学習センター）で講演会（団長の講演があり）、開催地紹介などがありました。

翌11月4日は快晴。午前フットパス体験でA、B、C、3コースが予定されていましたが、C：麻生陣屋コースは参加者が少ないので、A：武田の里コースとB：玉造りふれあいコースの2つで行われました。

午後はオプションツアーとして観光帆引き船見学（玉造地区）の予定でした。午前中は風がほとんどなく実施が心配でしたが、運よく風の具合がよくなり帆引き船見学の観光船に乗船できました。我々は運良く13時30分の観光船に乗船出来ましたが、15時30分組は欠航となり乗船できなかったようですが市の方のお話でした。

ここで行方市について簡単にご紹介しておきます。

行方市は茨城県の霞ヶ浦と北浦の両浦との間に位置します。2006年9月2日に、玉造町、麻生町、北浦町が町村合併して誕生した市で人口は約38,200人。



行方フットパスのウォーキング光景
□放送：2012年11月7日
NHK首都圏ネットワーク

基幹産業は農業。県の主な沿革としては、明治4年7月に廃藩置県で新治県、茨城県、印旛県を設置。明治6年6月、印旛県を千葉県に編入。明治6年8月に新治県を廃止、その時、新治県は利根川を境にして、利根川以北の新治県が茨城県にくみ入れられました。この時以来千葉県と茨城県の県境を利根川と決め現在の茨城県域がほぼ確定しました。

また、行方は数回の統廃合を経て、平成の大合併の前までは行方郡の中心として、麻生町があり、現在も麻生町（本庁）、北浦町（北浦町）、玉造町（玉造町）と3箇所で行政を施行しています。

参考資料…・全国自治体データブック

- ・全国市町村要覧
- ・茨城県の歴史



して、霞ヶ浦大橋の近隣にある霞ヶ浦ふれあいランド・虹の塔が見えたところで右折し行方市玉造町に到着してバスを下車、約10分のトイレタイムを取りフットパスに出発。まず最初に、「大山守大場家郷土屋敷」（県指定

□ 玉造りふれあいコースを歩いて

レイクエコー（北浦を眺められます）からバスで北浦大橋を渡り、鹿嶋市、鉾田市に入り、鹿行大橋で3.11震災で被害に遇った橋を見ながら行方市の北浦地区を通過

有形文化財）を見学。大場家は、幾代にもわたって水戸藩「大山守」を勤め 20 数カ村の藩有林を管理するとともに、広域にわたる藩の行政に携わった家である。建物は中世の山城・玉造城を背にした農家造りの居住、役宅部と数奇屋風の格調高い御殿部があり、そして長屋門を構えた屋敷となっていました。長屋門は藩主が御成りの時と元日以外は開けなかつたため、「開かずの門」と言われている。またこの屋敷は水戸藩南部の藩政事務所として寛文期（1661～72）に建てられ、平成 16～20 年にかけて、5 カ年計画により大掛かりな解体修理が行われ幕末期の大山守大場家郷土屋敷に復元されました。この屋敷の家主の説明を聞きましたが残念ながら聞き取れず、聞こうと移動したがほとんど聞き取れませんでした。そして、この屋敷の背にある玉造城（注 1）に向かい、玉造城跡に登って行く途中の曲輪があったところで案内人がここから先は道がすべるので、ここまででと言わわれて元の道に戻り次のポイントに戻りました。玉造城跡に行くことが出来ず非常に残念でした。

鹿島鉄道…記憶にある方もいらっしゃると思いますが石岡駅から鉢田駅との鉄道。現在は廃線となっている旧玉造町駅跡に行く前、道路にあった踏切跡にレールのみがそのまま残してある処に案内されました。そして、残ったレールの踏切跡から市街地に入って少々の距離で旧玉造町駅跡に着きました。そこを歩いた時の感想ですが、踏切跡に続くレールを撤去した土手、すすきが繁茂し手

を入れた様子もないでのこの土手をフットパスの一つのポイントとした方がいいのではと考えました。旧玉造町駅跡はトイレと小さな売店があり、大部分が駐車場に利用しているようですが駅が廃止されたので何か他に利用法があるのではと思いながら旧駅をあとにしました。梶無川沿いに里の景色を眺めながら素鷺神社に到着すると階段が多いのでご希望の方のみ登ってくださいと、しかし神社からの眺望はいいとのことで数人の健脚の方が急ぎ足で行かれました。皆が揃ったところで霞ヶ浦の湖岸道に出ました。この霞ヶ浦の面積は琵琶湖に次ぐ広さで、日本第二位との話を聞きながら、霞ヶ浦ふれあいランド近くの昼食場所に到着しフットバスもここまでで終わりました。

（注 1）玉造城：嘉応年間（1169-71）常陸大掾一族の行方宗幹（景幹）が築城し、治承年間（1177-88）に景幹の四男四郎幹政が玉造に配され、玉造氏を称するようになった。以後その子孫が歴代の城主となる。戦国期には行方一族の間の内紛や小田氏、佐竹氏など常陸の諸氏の勢力の拡大にからむ思惑から佐竹氏の傘下にあったにも拘らず、天正 19 年（1591）2 月 9 日重幹は南方三十三館の諸氏族と共に佐竹義宣に誘殺され玉造城が落城、以後佐竹氏の支配下に置かれた。

（参考資料：「日本城郭大系第四巻」人物往来社）

□ 観光帆引き船見学

午後はオプションツアーとして観光帆引き船見学（玉造地区から乗船）に参加しました。

霞ヶ浦の帆引き船は明治 13 年にかすみがうら市の方が考案され、風の力をを利用して、網を引く漁法です。昭和 40 年頃の最盛期には、霞ヶ浦の風をはらんだ白帆の点在する風景が霞ヶ浦の風物詩であったが、その後途絶えていました。伝統漁法を守り続けるため、行方市、かすみがうら市と土浦市の 3 市が觀光用として復活しました。

当日の天気は午前から風もなく穏やかな快晴でした。ほどほどの風がないと帆引き船が操業が出来ないと観光帆引き船が欠航となるのではと気をもみましたが少しの待ち時間後に順風満帆の状態となり、観光船乗り場に行き離岸しました。帆引き船に近づいて横から船を見ると、やはりどでかい帆に風を一杯受け、船の縁と帆先に網を引く網数本がバランスを保ちながら網を引いていました。それを見ながらぐるりと帆引き船の裏側（風下）に廻り、船がゆっくり走り出して、ブイ（浮標）のところに来ました。ブイの下には多分袋状の網があり、小魚が網から出るのを数多くのかもめが狙っていました。そこを船が回り、帆引き船の裏側（風下）にまた戻った後に観光船がスピードを早め、

今度は霞ヶ浦大橋の下を通り鯉の養殖場の方に船が向いました。霞ヶ浦は時代と共に「獲る魚業から、育てる魚業」に変わり、その養殖場は水面から高さ 5～6 m の鉄柵に網イケス（小割式）の方法でした。一辺約 5～10 m のカヤを逆さにしたような網をその鉄柵に取り付け、その中に鯉を飼育しているようです、その逆さにした網を数多く鉄柵に取り付け数十 m の長さで列を成していました。このような列が何列もあり、その間隔が 50～100 m もあり、その間を船が走ると、自動的に餌を与えているのか、鯉が水面で元気に餌を食べるためざわざわと跳ね回っている。これが見せ場かとも考えました。この観光船では、始めから、何の説明もなく想像を巡らせていく間に帰路につきました。しかし、久々の船で非常に爽快でした。



大山守大場家郷土屋敷の敷地内



帆引き船

ガイドリーダーと行く史跡探索!

※ 参加費 団員 500円(ご夫婦は二人で700円)一般は一人700円

事前申し込み不要。当日現地にて受付。雨天時は中止(次週に順延の場合あり)。昼食(弁当)・飲料・敷物・雨具等ご持参下さい。

実施要領は、チラシまたはホームページにてご確認ください。

大栗川が語る古代(王家の谷)の谷

□2013年3月21日(木) ガイド▶秋田慎子(団員)

連絡先 / 秋田 慎子 ☎ 090-9295-8600

【内容】多摩川にそそぐ大栗川の両岸には、6世紀から7世紀末にかけて、多くの古墳が造られています。多摩市ではこの地域を「王家の谷」と称しています。近くには、奈良・平安時代のニュータウンといわれる和田西遺跡もあります。

多摩市・日野市・八王子市にまたがっているこの渓谷地帯を舟に

のって遡る古代の人々は、なにを見たのでしょうか? そして往来する目的は…!!

今回は、大栗川の両岸を地上から歩いて、確認していきます。ここに眠る人達は、何を伝えたかったのでしょうか。感じて推理して楽しみませんか。

【コース】聖蹟桜ヶ丘駅西口改札口 10:00集合 駅前からバス～落川バス停～稻荷塚古墳・臼井塚古墳～庚申塚古墳～塚原古墳群～厚生荘病院横穴墓～万歳院台古墳群～中和田横穴墓群～日向古墳の行程を歩きます。途中の公園で昼食(公衆トイレ有)の予定です。
解散:多摩モノレール大塚駅周辺(バス停あり) 15:00頃

多摩ニュータウンの鎌倉古道を探る

□2013年4月20日(土) ガイド▶松本英昭(団員)

連絡先 / 松本 英昭 ☎ 090-1255-3807

【内容】歴史古街道団が多摩市に新しく設置した鎌倉古道案内板7ヶ所の取り付けルートを歩き、その周辺の多摩ニュータウンにかすかに残されている史跡・石仏を探索したいと思います。

多摩ニュータウンは、決して“何もない場所”に忽然と姿を現し

たのではありません。かつては鎌倉古道上ノ道を始め旧鎌倉街道、鎌倉裏街道、御尊檀御成道(矢倉沢古道・大山道)などの古道が通り、石仏・神社・仏閣が多くありました。今回永山・貝取地区を歩き、多摩市の歴史再発見をしたいと思います。

【コース】京王永山駅改札前 10:00集合～阿弥陀堂～御嶽神社～念佛供養板碑～麦花塚～貝取緑地付近の鎌倉古道～貝取神社～笛吹峠推定地～豊ヶ丘北公園昼食～鎌倉古道沿いにあった大シラカシ～南貝取の石仏9基～瓜生一里塚～永山駅 15:00頃 解散予定
※ 雨天中止の場合は翌週4月27日(土)に実施。

江戸城探訪

□2013年5月5日(日) ガイド▶佐藤文俊(団員)

連絡先 / 佐藤 文俊 ☎ 042-373-3193

【内容】天正18年(1590)豊臣秀吉の命により、東海三河の地から関東に移封された徳川家康は、居城に敢えて何もない江戸を選んだ。それは何故か? そして、慶長8年(1603)征夷大將軍に就任した家康は、満天下に徳川家の威光を示すべく、江戸城改修の

大工事に乗り出す。そこには、徳川政権の安泰という思惑が隠されていた…。今回は「歴史の生き証人」江戸城の遺構をくまなく訪ね、巨城に潜む徳川家260年の大ドラマを追います。

【コース】都営三田線「大手町駅」D1出口方面改札口 10:00集合～行幸通り～和田倉門～日比谷通り～大手門～大手三の門跡～同心番所～百人番所～大番所～中雀門跡～富士見櫓～松の大廊下跡～本丸跡～石室～大奥跡～天守台～展望台～汐見坂～二の丸庭園(昼食)～諏訪の茶屋～梅林坂～北桔橋門～北の丸～田安門～靖国通り～靖国神社大鳥居～神門～中門鳥居～拝殿～南門～靖国通り～都営新宿線・JR中央線「市ヶ谷駅」 15:30頃解散
※ 雨天中止の場合は翌週5月12日(日)に実施。

東山道武蔵路と鎌倉街道堀兼道

□2013年6月2日(日) ガイド▶山下 実(団員)

連絡先 / 山下 実 ☎ 090-5208-3123

【内容】天東山道武蔵路は武蔵国府から埼玉県内を北上して深谷市妻沼で利根川を渡り群馬県に入りますが埼玉県北部の詳細は明らかにされていません。所沢市と狭山市境の異質な境界は東山道武蔵路跡といわれ、雑木林と共に残る約1500メートルの平行道は古代官道が堀兼道へと変遷したと考えられ、近年の発掘調査

により武蔵路と確認されました。堀兼神社には日本武尊伝説・堀兼の井が残り周辺耕作地は江戸時代川越藩主、柳沢吉保によって開拓された短冊状の地割が今もそのままの姿で残り耕作が続けられています。

【コース】新所沢駅=バス「富岡」下車～東山道武蔵路跡・堀兼道～八軒家の井～堀兼神社・堀兼の井～権現橋石仏群～鎌倉街道遺構～三ツ木観音堂・薬師堂・三ツ木原古戦場碑～新狭山駅。行程約7km。
※ 都合により変更の場合有り。

好評! 目例ウォーキング 多摩よこやまの道を歩こう!

【内容】毎月定期的にミニ・ガイドウォーキングとして実施しています。「よこやまの道」は多くの古道と重なり交叉し、それらの痕跡や伝説も多く、古道や歴史に関心のある方々に愛好されています。また、里山の自然が残っており、四季の移り変わりを楽しめます。野鳥や植物観察もしながら、この豊かな道を歩き・感じ・味わってみませんか?

下記の東・西2コースを隔月交替で、毎回、行程を変えて歩きます。ガイドが伝統行事や「数」の謎解き、季節の万葉歌朗詠・解説も行います。

● 参加費 / 団員300円、一般500円

● ガイド : 須知正度(団員) (連絡先 ☎090-3695-7580)

【東コース】 □ 3月10日、4月6日 京王相模原線若葉台駅 9:30集合 □ 5月12日、7月14日 京王相模原線若葉台駅 9:00集合

コース1: 丘の上広場～防人見返りの峠～並列古道跡(古代東海道跡)～古道五叉路～別所桜並木～京王多摩車庫方面へ

コース2: 丘の上広場～天王の森～白山神社～旧多摩聖蹟記念館～聖蹟桜ヶ丘駅方面へ(または、天王の森～上谷戸～稻城へ)

【西コース】 □ 4月14日、6月9日、8月11日 小田急多摩線唐木田駅 9:00集合

コース1: 唐木田駅～奥州古道(常磐ルート)～正山寺・鶴見川源流～長池公園経由京王堀之内駅へ(または、奥州古道～山王塚～尾根緑道～小山内裏公園～多摩境へ)

コース2: 総合福祉センター～(奥州廃道)～小山田緑地～奥州古道(中尾道)～石仏群～京王多摩車庫方面へ(または、小山田緑地～小野路城址～小野神社へ)



多摩よこやまの道 を花見て歩こう

4月6日(土) 観桜ウォーキング 京王相模原線若葉台駅 9:30集合

参加費 / 団員300円、一般500円 ガイド: 須知正度(団員) (連絡先 ☎090-3695-7580)

地域史懇談会

ウォーキング参加者や団員相互の交流をより一層図ろうと、昨年から2ヵ月に1回程度開催している「地域の歴史の情報交換会・学習会」です。

この会合からガイドウォーキングの企画・実施や伝統行事の謎解きの試みなど、いくつかの成果が現れつつあります。

2013(平成25)年4月以降、「よこやまの道」ウォーキング終了後に茶話会・飲み会を兼ねて気楽な形で、2ヵ月に1回程度、開催したいと思っています。

話題の基本テーマは、旧暦二ヶ月分の伝統行事から選んで、遅くとも開催1ヶ月前にお知らせします。参加の方にご自分の伝統行事に関する経験や感想をお話し頂く形で進みたいと思います。

ガイドウォーキングの企画や実施の検討、ほか学習したいテーマがあれば、こちらを優先して話題とします。優先テーマを募集しています。奮ってご応募ください!

懇談会に奮ってご参加ください。よろしくお願ひいたします。

■ 4月14日(日) 13:00～ ジョナサン多摩センター駅前店
参加費: 資料代+飲食実費

基本テーマ: 旧暦4月の「花見、花祭、高山登り」、
旧暦5月の「ちまき、柏餅、菖蒲湯」など

■ 6月9日(日) 13:00～ ジョナサン多摩センター駅前店
参加費: 資料代+飲食実費

基本テーマ: 旧暦6月の「土用の鰐、茅の輪くぐり」、
旧暦7月の「七夕、ねぶた(ネブタ)」など

■ 8月11日(日) 13:00～ ジョナサン多摩センター駅前店
参加費: 資料代+飲食実費

基本テーマ: 旧暦8月の「八朔、十五夜」、
旧暦9月の「十三夜、秋祭り・収穫祭」など

詳細は、チラシまたは歴史古街道団ホームページで告知いたします。 ■お申し込み: 当日 ■お問い合わせ: (団) 須知 ☎090-3695-7580

歴史古街道団 総会 開催

2013年度 歴史古街道団の総会が下記の通り開催されます。

団員の方は是非ご出席くださるようお願いいたします。

なお総会後には、団長による講演会も行われますので、あわせてご参加ください。

記

1. 日 時 2013年5月26日(日) 午後1時30分より

2. 場 所 関戸公民館 大会議室

3. 議 題 ① 2012年度 活動報告

② 2012年度 会計報告及び会計監査報告

③ 2013年度 活動方針案

④ 2013年度 予算案

⑤ その他

4. 宮田団長 講演会 午後2時45分より4時まで

テーマ「鎌倉大城郭! ~山崎地区の鎌倉防戦遺構郡~」

鎌倉幕府が新田軍により崩壊した戦いで激しい攻防が繰り広げられた大船(洲崎)側は、正に鎌倉防衛の最前線であったはず。この北鎌倉・山崎地区でのこれまでの独自の実地踏査で確認した鎌倉城の防衛・防戦遺構(砦跡、人馬駐屯広場、土器が散乱する丘、見張り台、大穴、大石など)についてお話をします。

参加費: 団員無料 一般 300円

2013年度 年会費 納入のお願い

同封しました振込み用紙にて、
新年度の歴史古街道団年会費(3,000円、ご家族はお二人で3,000円)
の納入をお願いいたします。年会費は主に年3回発行の団報「歴史ロマン古道ニュース」を会員皆様にお届けし、またウォーキング時の保険など歴史古街道団活動の費用にあてています。

なお振り込みが面倒な方は、会費を振込み用紙と一緒に、団のウォーキング時等の機会に運営委員にお渡しいただいても結構です。よろしくお願ひいたします。



気になる地名「木曾免」

齋地 カズエ（団員）

多摩市関戸に「きそめん」と伝承されている地名がある。

昨年四月に歴史古街道団では、団員中丸三次氏を囲んで「多摩川の鮎漁に関わる屋号木曾面」についての学習会を行った。

その席で中丸氏は、「木曾面」の「面」を方面と理解し、多摩市関戸から町田市木曾へ続く古代東海道（矢倉沢往還）との関係を考察して、小字名や屋号が道しるべとしての機能を持つのではないかと述べられた。

参加者からは大いに関心が寄せられ、後日、現地での聞き取り調査やウォーキングが催された。参加者のひとりとして、少し調べたことを記してみたい。

「免」の付く地名は、通常、免田に由来とするといわれている。免田とは、「莊園・国衙領において年貢・公事を免除された田。領内の社寺・莊官（地頭・預所・公文・下司など）・手工業者（鍛冶・鑄物師など）・運輸業者などに、所領經營に関与する報酬として支給される預所免・公文免・鑄物師免などとよばれる」（『大日本百科事典』）とあるように、貢租を免除された田のことである。

このような地名は全国的に数多くみられる。例えば、御免（岩手）・奉行免（秋田）・番匠免（秋田）・天神免（福島）・巾木免（茨城）・免鳥（栃木）・上敷免（埼玉）・内免（富山）・新免（岡山）・神楽免（徳島）・伊勢免（熊本）などがある。

なかには「免」が「面」に変化したものや、山形の「金注連 かなじめ」（鍛冶免 かなじめんに由来）や、「雷免 いかじめ」、愛知の「雜役免 ぞうやくめ」のように「ん」が発音されないものもある。

多摩市では、中和田の高蔵院の西側に「堂免」と伝承された地名がある。この地の年貢、公事が免除され、免除された年貢が高蔵院の経営に充てられたと思われる。また、一ノ宮には「油面」がある。これも灯油料としておそらく小野神社に寄進するかわりに租税を免除されたものと思われる。さらに下落合の旧地名にも「油免」があり、東福寺との関係がうかがえる。



『多摩市の町名』より

多摩市の「木曾免」

木曾免について、関戸在住の井上正吉氏は次のように記述している。

関戸の村内で連光寺村と堺する東方一帯、現在そこは畠地がすこし残り、殆んどは住宅化して、あとの大部分は新鎌倉街道となってこの地を縦断しているが、ここは以前乞田川添いの畠地で、木曾免の家号の井上氏の屋敷跡地なのである。だから今でも村の古老達は木曾免畠と呼称している。

～中略～

木曾免なる家号にしても色々と調査詮索の余地はあるであろうが、系譜から推せば、木曾の冠者源義仲公の臣井上九郎光盛の流れの一つかも知れないと思われる。同じ井上を名のる筆者の家系にもこの伝承があるが、詳しいことは不明である。

東国に木曾の手の者と言えば不思議でもあるが、すぐ近くの町田市には木曾の町名があるし、八王子市大塚にもこの系譜を自負する舊家が何軒かある。

〔『郷土たま』第6号「名家探訪 鮎宿木曾免」〕

このように、「きそめん」は多摩市関戸の旧家井上家の家号であり、その畠を木曾面畠、近くを流れる乞田川を木曾免川といったのである。

井上家は明治の初め（浅右衛門のとき）、関戸の渡船場近くに転居し、渡船業、鮎茶屋（井上亭）を営むようになった。ややこしいのは、そこも木曾免と呼ばれ、近くの川も木曾免川と呼ばれるようになったことである。本来は元の場所の呼び名であったのである。

井上家のことを、井上正吉氏は「この家の由緒は鎌倉幕府の頼朝に対して仲の悪かった木曾義仲の探題であつたらしい。」と『野翁小咄』に書いておられる。

木曾（源）義仲は、平安時代末期の信濃源氏の武将であり、歴史古街道団でも“大蔵はどこか”でよく話題になる、源義賢（帯刀先生）の次男である。朝日（旭とも）將軍と称され、頼朝・義経とは従兄弟にあたる。木曾氏（源姓）は子の義高の代に滅亡したといわれている。

井上氏は清和源氏の末流で、頼季のとき（十一世紀中ごろ）北信濃上高井地方の井上（現須坂市）を本貫とし、武士団として成長していくとみられる。義仲が信濃に兵を起したとき、家臣としてこれに応じたのが井上九郎光盛である。

この光盛こそが、関戸の井上正吉氏の、また木曾免井上家のご先祖との伝承があるのである。

『新編武蔵風土記稿』柚木領大塚村の項に、舊家は井上家で、木曾義仲の家人井上九郎光盛が信濃の国よりこの地に来て大塚村を開いたとあり、その子孫は堀之内村、越野村を開いたと記載されている。木曾氏が滅亡したのを機に、井上氏はこの地に土着したのであろうか。その後大石氏に仕えたという説がある。

木曾免という地名はウェブ検索によると大船、坂戸、足柄にもあることがわかる。

① 大船の「木曾免」

今の大船五丁目にあり、かつてそこに木曾塚があつた

とされる。

『新編相模國風土記稿』の大船村の項に、「小名。木曾免 木曾義高。古墳ノ邊ナリ」とあり、常楽寺の項に「木曾冠者義高塚。姫宮塚ノ山腹ニアリ。～中略～ 古塚ハ小名木曾免ノ田間ニアリ。當寺ノ坤方。二町余ヲ隔。」との記載がある。

粟船山常楽寺の裏山には、大正時代に建てられた木曾義高之塚の碑があり、次のような内容が記されている。

（義高は義仲の長男である。かつて義仲は、頼朝の怨みを招き、戦になろうとした時、義高を人質として鎌倉に送り、和解した。それ以後、義高は頼朝の世話をになり、その娘を妻とした。そして義仲が大津（栗津）で殺害された時、鎌倉を逃げたが、入間川で捕えられて斬られた。塚はもとここから西南に約百メートルの、木曾免という田の間にあったものを、延宝年中にここに移したという。旭将軍（義仲）の激しく豪快な短い生涯の余韻を伝えて、数奇な運命に弄ばれた彼の薄命の息子の首が、この地にて永い眠りについている。）

地名の由来は木曾義高に因んで税が免除されたからという。

大船は、鎌倉街道中ノ道を南へ進むと巨福呂坂を経て鎌倉に至り、逆に北上すると信州や東北方面などへ至るという、交通の要衝地でもある。

② 坂戸の「木曾免」

坂戸市小沼一三六七あたりにある。ここの「木曾免遺跡」は数年前、圏央道の坂戸インターチェンジ建設のときに発掘調査を行い、弥生時代の遺物が出土している。

坂戸市には三本の鎌倉古道が残されており、そのひとつが青木と小沼の間を通る。ここは鎌倉と信州をつなぐ道筋にある。青木には東光寺や別所があり宿の地名も残る。またその西側を東山道武藏道が南北に通じている。ここもまた交通の要衝の地である。しかし、木曾免の地名由来は不明である。

③ 足柄の「木曾免」

神奈川県足柄上郡大井町山田には、字木曾免という地名があるが、詳細はわからない。近くに曾我別所がある。

④ その他に、『新編武蔵風土記稿』多摩郡長淵村の小名に「木初」（きそめ）がある。「きそめん」の「ん」が脱落したとも考えられるが詳しいことはわからない。

いくつかの例から言えば、「木曾免」はその土地を管理するものが、木曾氏に因って、領主に対する租税を免除された土地の意味なのであろう。

しかし、それぞれの「木曾免」が、木曾氏やその家臣とどう関係があるのか、何で他の氏の免田は無いのか、「きそ」は木曾氏ではなく他の意味なのかなど、気になる「木曾免」である。

最終回として、二桁の自然数（ものを数えるのに使用する数）について述べます。

十は、両手（両足）の指の数。これは疑問の余地がないでしょう。十大、十干など。

十干は、草木の生長・盛衰の循環を意味し、日を数えるのに用いられました。上旬、中旬、下旬の「旬」がその名残です。

(4) 五行説に従っていると見られる数

これに属するのは、十一と十三および十五です。

吉野裕子さんの説に従って、まとめて置きます。

（吉野裕子著『陰陽五行と日本の文化—宇宙の法則で秘められた謎を解く』2003大和書房）

まず、五行説の考え方を簡単におさらいしておきます。それは、一年を最も重要な時間の単位として、その時間が順当に経過することを祈念する考え方です。一年は春夏秋冬の四季を持つことは、言うまでもありません。四季の推移を簡単に述べれば、（土用）（立春）春（土用）（立夏）夏（土用）（立秋）秋（土用）（立冬）冬…以後、この繰り返しで、季節の変わり目（四立の前）に土用を配し、季節間の橋渡しの役目を持たせています。そして、この四季と土用に木・火・土・金・水の五気を割り当て、四季の廻りつまり季節の推移を促す術としています。四季の推移を自然に任せきりにするのではなく、四季の折目節目に、祭り、年中行事を置いて人間の側からも季節の順当な推移を促しています。五行、木・火・土・金・水には、表1に見るような様々なものや事柄等が対応付けられています。対応付けられるもの等は、限られた範囲に留めましたが、楽器・声・味・臓器、顔の表情などもそうです。

表1 五行対応表

| 五行 | 性格 | 十干 | 十二支 | 方位 | 季節 | 色 | 生数 | 成数 | 五 神 | 五 星 |
|----|-----|-----|---------|----|----|---|----|----|--------|--------|
| 木 | 命ある | 甲・乙 | 寅・卯 | 東 | 春 | 青 | 三 | 八 | 龍（青龍） | 木星（歲星） |
| 火 | 熱い | 丙・丁 | 巳・午 | 南 | 夏 | 赤 | 二 | 七 | 鳥（朱雀） | 火星（熒惑） |
| 土 | 中庸 | 戊・己 | 丑・辰・未・戌 | 中央 | 土用 | 黄 | 五 | 十 | 麒麟（勾陳） | 土星（鎮星） |
| 金 | 硬い | 庚・辛 | 申・酉 | 西 | 秋 | 白 | 四 | 九 | 虎（白虎） | 金星（太白） |
| 水 | 冷たい | 壬・癸 | 亥・子 | 北 | 冬 | 黒 | 一 | 六 | 龜（玄武） | 水星（辰星） |

表2 和月と二十四節気他

| | 睦月 | 如月 | 弥生 | 卯月 | 皐月 | 水無月 | 文月 | 葉月 | 長月 | 神無月 | 霜月 | 師走 |
|-------|----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|
| 節 気 | 立春 | 啓蟄 | 清明 | 立夏 | 芒種 | 小暑 | 立秋 | 白露 | 寒露 | 立冬 | 大雪 | 小寒 |
| 中 気 | 雨水 | 春分 | 穀雨 | 小滿 | 夏至 | 大暑 | 処暑 | 秋分 | 霜降 | 小雪 | 冬至 | 大寒 |
| カレンダー | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 |
| 十二支 | 寅 | 卯 | 辰 | 巳 | 午 | 未 | 申 | 酉 | 戌 | 亥 | 子 | 丑 |

① 十一是、十一面觀音で馴染みがあります。

十一面觀音を主役とする祭りは、奈良東大寺の有名な「お水取り」です。東大寺二月堂で旧暦二月一日（如月、現行三月一日）から十四日間行われる修二会行事の一つで、「十一面觀音の悔過行法」（天平勝寶四年752年から）の別称です。東大寺は奈良の東方で「木氣」の象徴。「旧暦二月」は木氣の正位で春です。「十一」は表1の3+8（=11）で木氣の生数と成数の和が由来となります。さらに、派生して38は三八神社と名前に、11は正月の鏡開きと吉事に利用されています。

水取りの「香水」は奈良の真「北」の若狭遠敷明神鎮座地から送られるとされています。北は「子方」で「水氣」の象徴。「水生木」で「木氣」を生み出す母、「北」の「水」です。また、ハイライトは十二日で、十二本の松明の火の子を浴びると無病息災と言われていますね。「松」は木氣で「松明」は火氣、「木生火」を意味しています。「水生木」で冬から春、「木生火」で春から夏と季節順行の呪術です。

天の邪鬼は、「十一面觀音の悔過行法」に注目しました。「悔過」とは仏・菩薩・僧に対し自分の罪を懺悔すること、又その儀式のことです。「二月」が懺悔する月。一年の十二ヶ月中、懺悔をしない月が十一ヶ月あり、これらは懺悔の対象となる月。従って、十一は、12-1（=11）とも考えられます。ヒントはカレンダーの月名の由来がありました。二月はFebruary(フェブリュアリー)で、古代ローマの皇帝ヌマ(ローマ建国の祖ロムルスの後継者)がローマの過去の罪を償い戦死者の靈を慰めるため、贖罪の神(フェブルウス、Februus)を祀って、フェブルアリア(Feburualia、罪を償い淨める期間)という祭りを催したこと(BC710年頃)が由来と言われています。この時代は太陰暦で二月は如月に相当。(永田久著「暦と占いの科学」新潮選書より)

フェブルアリアと悔過行法、それぞれの開始期が約1500年隔たっていますが、シルクロードを通じた東西交流を想起させられますね。

② 十三是、十三夜、十三塚、十三重塔、十三階段など。



十一面觀音



十三重の塔

天の邪鬼のつぶやき

如月は、悔い暁す月ではないか?

Kuisarasu Tsuki→Kuisara Tsuki→Kisara Duki
→Kisaragiと前の母音の脱落や語のつん詰まりで変化したのでは?

字義は悔い改めて如来(仏)に従う月と読みました。

「十三夜」は、旧暦九月十三日の月祭りで、お供えは「栗や豆」です。別名「栗名月」「豆名月」とも呼ばれます。「栗や豆」は「硬い」から「金氣」です。「九月」は言うまでも無く秋、金氣で、十三夜に栗や豆をお供えして、収穫祭です。「十三塚」、「十三重塔」、「十三階段」は、「死」を想起させられます。死は「骨」、骨は「白く」、「硬い」。もうお判りでしょう!「金氣」です。

「十三」は、「金氣」に係わる数です。表1から4+9 (=13)です。四も九も金氣で、季節は「秋」、色は「白」、性格は「硬い」に関係します。派生の49も該当します。

十三階段や「十三日の金曜日」は、東西交流の結果であろうと思われます。

③ 十五は、十五夜(旧暦八月十五日)、小正月(旧暦一月十五日)、盂蘭盆(旧暦七月十五日)、七五三(旧暦十一月十五日)で、行事が十五日に集中しています。満月(望月)から次の満月(望月)で月の移り変わりを捉えていた名残りでしょう。暦が作成され、朔(新月)が月初とされてからは、月央、月の十五日目で、ほぼ満月(望月)となる日です。表1の「生数」(一から五まで)を合計すると、十五になります。従って、十五は、五行説でいう生数の合計と見ることも出来るのです。

(5) 時間に関係する数

二桁の自然数では、十二、二十四、六十について、まとめて置きます。

① 十二と二十四は倍の関係。十二は、十二時間、十二ヶ月、十二支、十二神等。満月(望月)から次の満月(望月)で月の移り変わりを捉え、それが十二回でほぼ同じ季節が廻って来る、つまり一年となる。月の推移を表すことに由来すると思います。

十二支も十干と同様に、草木を主体とした万物の生長・盛衰の循環を意味しており、最初は月の推移を表すのに用いられました。その後、一日の時間の推移を表すのに

も利用されるようになりました。十二支(年の)や十二神は、歳星とされる木星が太陽の周りを一周するのに十二年を要することに関係していると思います。

また、「十二」は、良く利用される「三」から始まり、一から三までの合計が「六」(完全数、歴史ロマン古道ニュースNO.19をご参照ください)の倍で、さらに、その倍が「二十四」です。昼間と夜間にそれぞれ、十二時間を割り当て、合計二十四時間。また、昼間と夜間それぞれの半分の時間が六時間。当たり前ですが、不思議な関係ですね。でも、このように言えるのは、次の六十が前提でしょう。

② 六十は、六十干支、六十進法。

数学的には十と十二の最小公倍数です。

十干と十二支の組合せ、六十干支で日や年の推移を表しています。

六十進法がなぜ使われるのかは、60の約数が多いからと言われています。それらを挙げると、1、2、3、4、5、6、10、12、15、20、30、60と合計12個で確かに多いですね。これが由来でしょうか?

天の邪鬼は、六十が最初に有った、決まっていたと考えています。では、60進法のルーツを紹介しましょう。

今から5千年前のメソポタミア、チグリス・ユーフラテス河の流域に住んでいたのは、シュメール人とアッカド人。アッカド人がシュメール人を征服した時に、一つの物の重さが互いに異なる単位で二通りに測られ、一方は他方の60倍であることを知らされたと言います。シュメール人は「ミナ」(約540g)で、アッカド人は「シュケール」(約9g)を用いていました。つまり、シュケール60でミナ1に変わることを知ったのです。これが60進法のルーツです。(永田久著「暦と占いの科学」新潮選書より)そして、この後は、天の邪鬼の推理です。ある時いつの頃か?胸に手を当てて考えていた人がいて、ハタと膝を打ったのです。そう!「胸の鼓動」です。これで太陽や月の動きを測ることが出来ないか?胸の鼓動60回で1ミナ(ミニツ、Minuteつまり1分)に、60ミナで…、時間と角度が60進法で表される由来を考えてみました。

これまで3回にわたり、身の回りで常用される自然数の由来について述べてきました。慣習から使用しているなど、その由来が判らない数が多くたと思われますが、どこまで文献の引用や天の邪鬼の推理で説得力のあるものを提供出来ましたでしょうか?お読み頂いた方々からのご叱正をお願いいたします。

お詫びと訂正

(歴史ロマン古道ニュースNo.19「その数なぜ使われる?—第一弾」中の記述)
(誤)『『完全試合』を成し遂げられた「江夏 豊」さん』、
(正)『日本プロ野球史上初、「延長戦(11回)ノーヒット・ノーラン」を達成された「江夏 豊」さん』です。お詫びして訂正いたします。

歴史古街道団予定表 (2013年3月~2013年8月)

※注 (団)=歴史古街道団 【宮田】=宮田太郎ウォーク 【学】=講演会・学習会 【ガイド】=ガイドリーダーウォーク

| 月日 | 集合場所・時間 | 探索・学習テーマ | 参加費 | 申込み | 問合せ先 |
|-------------------|---|---|--|-------------------|---------------------------|
| 3月7日(木) | 関戸公民館8F大会議室14:00 聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分 | 【講】「東北エミシ古道の魅力～蝦夷の首長アテルイとモレの砦～」 | 団員:700円 一般:1,000円 | 当日 先着90名 | (団)宮田 TEL090-7002-3431 |
| 3月9日(土) | まちだ中央公民館7階ホール、 JR町田駅徒歩5分。109ビル、10:50 | 【講】「鎌倉古道」を知る歴史講演会、鎌倉古道～世界遺産「武家の古都鎌倉」への道～ | 一律:300円 | 当日 | 鎌倉古道・歴史遺産の会主催 |
| 3月10日(日) | 京王相模原線若葉台駅改札口前 09:30 | 【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！東コース | 団員:300円 一般:500円 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| 3月16日(土) | 京王線聖蹟桜ヶ丘駅西口改札口前 08:00 | 【バス】古代の息吹きを「さきたま古墳群・稻荷山古墳で味わおう！」 | 5000円(バス代) 昼食入館料等別 | FAX・Mail 先着28名 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| 3月21日(木) | 京王線聖蹟桜ヶ丘駅西口改札口前 10:00 | 【ガイド】大栗川が語る古代〔王家の谷〕の姿 | 団員:500円 一般:700円 | 当日 | (団)秋田 TEL090-9295-8600 |
| 4月6日(土) | 京王相模原線若葉台駅改札口前 09:30 | 【ガイド】多摩よこやまの道を花見で歩こう！ | 団員:300円 一般:500円 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| 4月14日(日) | 小田急多摩線「唐木田駅」改札口前 09:00 | 【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！西コース | 団員:300円 一般:500円 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| | ジョナサン多摩センター駅前店 13:00～ | 【学】地域史懇談会： 基本テーマ；旧暦4月・5月の伝統行事について 優先テーマ；募集中 | 資料代+ 飲食代実費 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| 4月20日(土) | 京王相模原線永山駅改札口前 10:00 | 【ガイド】多摩ニュータウンの鎌倉古道を探る | 団員:500円 一般:700円 | 当日 | (団)松本 TEL090-1255-3807 |
| 5月5日(日) | 地下鉄都営三田線「大手町駅」 D1出口方面改札口前10:00 | 【ガイド】江戸城探訪 | 団員:500円 一般:700円 | 当日 | (団)佐藤 TEL042-373-3193 |
| 5月8～10日 (水～金) | 問い合わせ | 【旅行】伊勢神宮の謎 | クラブツーリズム主催TEL03-5323-6681 http://www.club-t.com/ | | |
| 5月12日(日) | 京王相模原線若葉台駅改札口前 09:00 | 【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！東コース | 団員:300円 一般:500円 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| 5月26日(日) | 関戸公民館8F大会議室 (聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分) 総会；13:30、講演会；14:45 | 【総会】歴史古街道団2013年度総会。総会後、団長講演『鎌倉大城郭！～山崎地区の鎌倉防戦遺構群～』 | 団員:無料 一般:300円 | (当日) | (団)宮田 TEL090-7002-3431 |
| 6月2日(日) | 西武新宿線「新所沢」駅改札口前 10:00 | 【ガイド】いすみ路Ⅱ「東山道武藏路と鎌倉街道堀兼道」武藏野の古代～中世～近世を歩く | 団員:500円 一般:700円 | 当日 | (団)山下 TEL090-5208-3123 |
| 6月9日(日) | 小田急多摩線「唐木田駅」改札口前 09:00 | 【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！西コース | 団員:300円 一般:500円 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| | ジョナサン多摩センター駅前店 13:00～ | 【学】地域史懇談会： 基本テーマ；旧暦6月・7月の伝統行事について 優先テーマ；募集中 | 資料代+ 飲食代実費 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| 6月12日(水) | 問い合わせ | 【バス】東京湾を渡るヤマタケル古街道(葉山～横須賀編) | クラブツーリズム主催TEL03-5323-6681 http://www.club-t.com/ | | |
| 6月20～21日 (木～金) | 問い合わせ | 【旅行】伊豆の歴史古道を歩く(伊豆の三島神と古代遺跡) | 朝日カルチャーセンター事業部 | | |
| 6月23日(日) | JR根岸線「港南台駅」改札口前 10:00 | 【宮田】“武相国境線”的謎を探る⑨、鎌倉・円海山と神秘の瀬上池 | 団員:700円 一般:1,000円 | 当日 | (団)宮田 TEL090-7002-3431 |
| 6月25～28日 (火～金) | 問い合わせ | 【旅行】韓国新羅王国の歴史探索ツアー | NHK学園主催TEL042-574-0570 | | |
| 7月13日(土) | JR東海道線「大船」駅 南改札びゅうプラザ前10:00 | 【宮田】“武相国境線”的謎を探る⑩、鎌倉最古の切通し「白山道切通し」と横浜自然の森 | 団員:700円 一般:1,000円 | 当日 | (団)宮田 TEL090-7002-3431 |
| 7月14日(日) | 京王相模原線若葉台駅改札口前 09:00 | 【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！東コース | 団員:300円 一般:500円 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| 7月20日(土) | 関戸公民館8F大会議室14:00 聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分 | 【講】『伊豆の三島神と古代遺跡の謎』、 講師：宮田太郎団長 | 団員:700円 一般:1,000円 | 当日 | (団)宮田 TEL090-7002-3431 |
| 8月11日(日) | 小田急多摩線「唐木田駅」改札口前 09:00 | 【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！西コース | 団員:300円 一般:500円 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| | ジョナサン多摩センター駅前店 13:00～ | 【学】地域史懇談会： 基本テーマ；旧暦8月・9月の伝統行事について 優先テーマ；募集中 | 資料代+ 飲食代実費 | 当日 | (団)須知 TEL090-3695-7580 |
| 8月24日(土) | 関戸公民館8F大会議室14:00 聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分 | 【講】『富士五湖・秦始皇帝の使い“徐福”伝説』、 講師：宮田太郎団長 | 団員:700円 一般:1,000円 | 当日 | (団)宮田 TEL090-7002-3431 |

○編集後記

都合により、歴史古街道団事務局住所を変更することになりました。今後、お問い合わせ、郵便は変更後の事務局の方へお願ひいたします。

今号は、12ページの充実した内容の団報となりました。これからも皆様から寄せられる興味深いテーマを掲載してまいりたいと思っています。

編集責任:歴史古街道団(藤田)

【発行】歴史古街道団

歴史古街道団 団長 宮田 太郎 TEL 090-7002-3431

事務局 〒252-0307 神奈川県相模原市南区文京1-5-19 エクメーネ304
歴史ライフ総合研究所内 宮田 太郎

ホームページ <http://rekodan.a.la9.jp/>